

## 1 医師

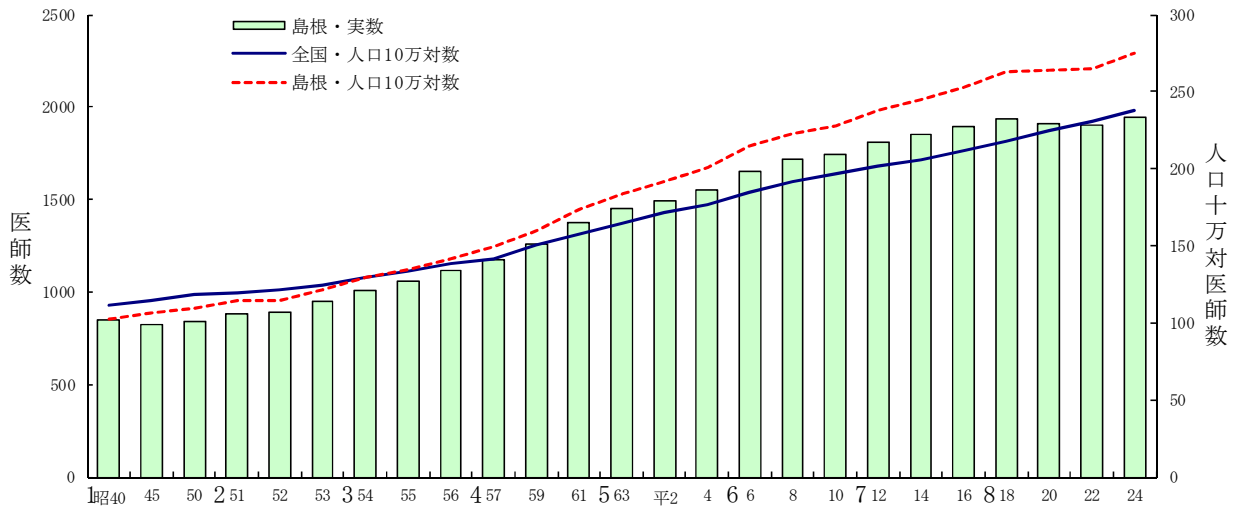
平成24年末現在の医師の届出数は1,946人で、前回調査時の平成22年から46人増加した。業務の種類別にみると、医療施設の従事者は1,853人で総数の95.2%を占め、前回に比べ54人増加し、構成割合も0.5%上昇した。介護老人保健施設の従事者は21人で前回と同数で、医療施設・介護老人保健施設以外の従事者は64人で前回に比べ2人減、その他の者は8人で6人減であった（表1）。

表1 業務の種類別にみた医師数及び構成割合

	医師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成24年	平成22年		平成24年	平成22年
総数	1,946	1,900	46	100	100
医療施設の従事者	1,853	1,799	54	95	95
病院の従事者	1,219	1,163	56	63	61
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	26	25	1	1	1
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	858	825	33	44	43
医育機関附属の病院の勤務者	335	313	22	17	17
臨床系の教官又は教員	199	167	32	10	9
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	136	146	-10	7	8
診療所の従事者	634	636	-2	33	34
診療所の開設者又は法人の代表者	462	467	-5	24	25
診療所の勤務者	172	169	3	9	9
介護老人保健施設の従事者	21	21	-	1	1
介護老人保健施設の開設者又は法人の代表者	3	3	-	0	0
介護老人保健施設の勤務者	18	18	-	1	1
医療施設・老人保健施設以外の従事者	64	66	-2	3	4
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	26	38	-12	1	2
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	5	6	-1	0	0
行政機関又は保健衛生施設の従事者	33	22	11	2	1
行政機関の従事者	19	14	5	1	1
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	11	3	8	1	0
産業医	3	5	-2	0	0
その他の者	8	14	-6	0	1
その他の業務の従事者	1	-	1	0	-
無職の者	7	14	-7	0	1
不詳	-	-	-	-	-

平成24年の人口10万対医師数は275.2人で、前回の264.8人に比べて10.4人上昇した。人口10万対医師数は年々上昇傾向にあり、昭和54年までは全国を下回っていたが、その後は上回って推移している（図1）。

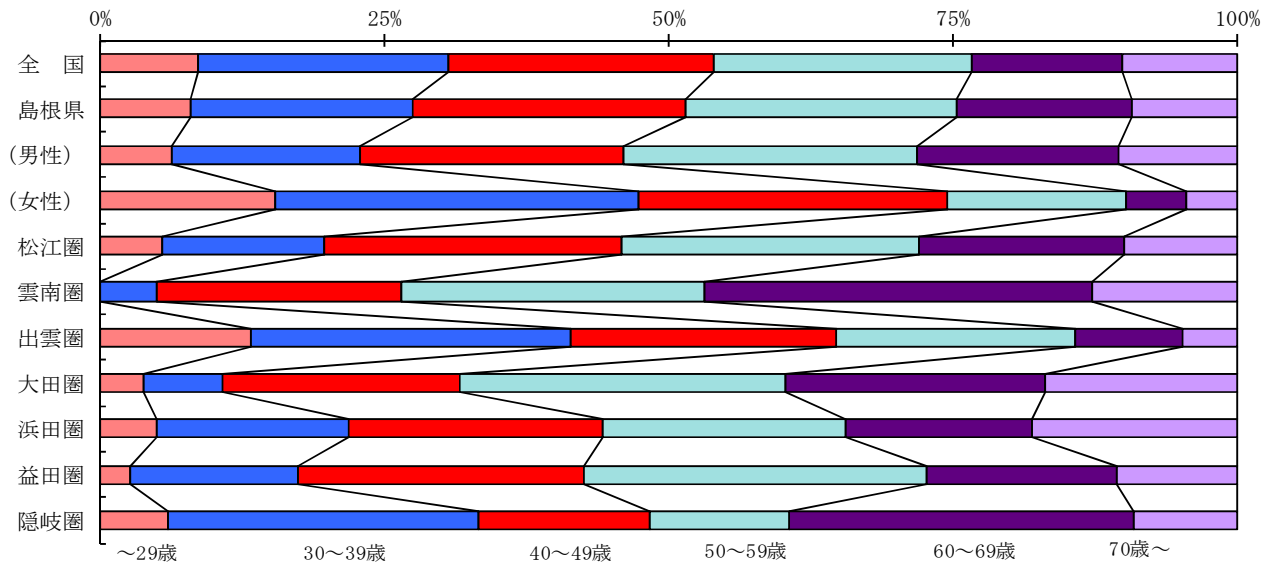
図1 医師数及び人口10万対医師数の年次推移



医師を年齢階級別に見ると、県全体では40歳代が23.9%、50歳代が23.8%とほぼ同じ割合を占める。全国の割合と比べると、ほぼ同様の年齢構成となっている。男女別に見ると、男性は50歳代が最も多く25.7%で、ついで40歳代が23.2%を占める。女性は30歳代が最も多く32.7%で、ついで40歳代が27.1%を占める。

2次医療圏別に見ると、出雲圏だけが20歳代の占める割合が13.3%と1割を超えている。雲南圏では、50歳以上が73.5%を占める（図2）。

図2 医師の年齢別割合



医師の年齢構成の年次推移を10年ごとにみると、昭和50年は45~49歳、昭和61年は25~29歳、平成8年は30~34歳、平成18年は45~49歳が最も多い年齢階級となっている。平成24年をみると最も多い年齢階級は50~54歳となる、また、前回調査の平成22年に比べ、20歳代が増加している（図3）。

図3 医師の年齢構成の年次推移

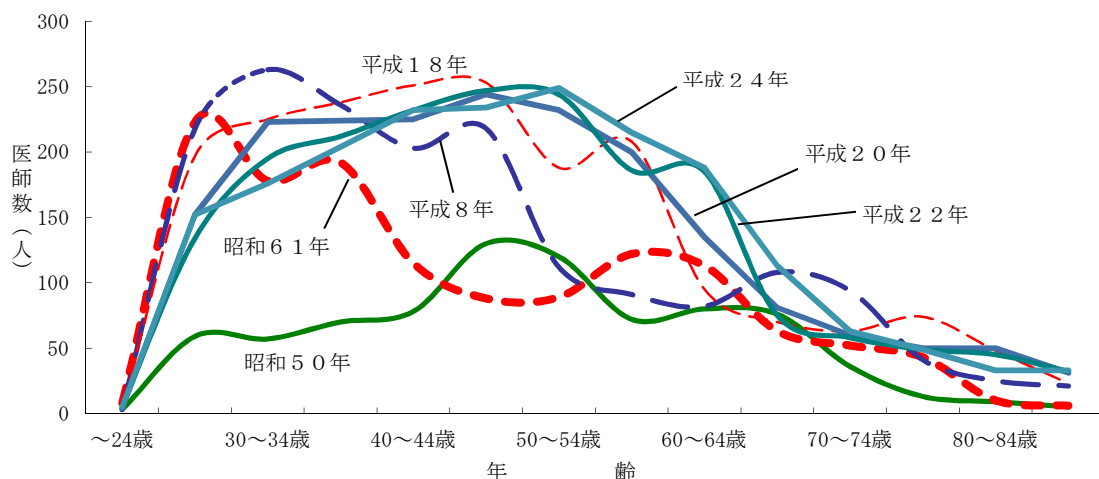


表2 診療科（主たる）名別にみた医療施設従事医師数

主たる診療科名別にみた医療施設従事医師数は、内科が最も多く432人で23.3%を占める。ついで、整形外科が133人で7.2%、小児科、精神科がそれぞれ105人で5.7%を占める。平成22年と比較すると医師数が最も増加した診療科目は消化器外科17人増、また、臨床研修医も17人増となっている。最も減少したのは内科、外科で13人減となっている（表2）。

	平成24年		平成22年		増減数 (人)
	人数	構成割合	人数	構成割合	
医師数	1,853	100.0	1,799	100.0	54
内科	432	23.3	445	24.7	△13
呼吸器内科	34	1.8	30	1.7	4
循環器内科	67	3.6	66	3.7	1
消化器内科（胃腸内科）	95	5.1	90	5.0	5
腎臓内科	9	0.5	7	0.4	2
神経内科	38	2.1	44	2.4	△6
糖尿病内科（代謝内科）	29	1.6	21	1.2	8
血液内科	19	1.0	14	0.8	5
皮膚科	46	2.5	51	2.8	△5
アレルギー科	-	-	-	-	-
リウマチ科	9	0.5	7	0.4	2
感染症内科	1	0.1	1	0.1	0
小児科	105	5.7	105	5.8	0
精神科	105	5.7	98	5.4	7
心療内科	1	0.1	-	-	1
外科	84	4.5	97	5.4	△13
呼吸器外科	11	0.6	9	0.5	2
心臓血管外科	18	1.0	17	0.9	1
乳腺外科	11	0.6	9	0.5	2
気管食道外科	-	-	-	-	-
消化器外科（胃腸外科）	24	1.3	7	0.4	17
泌尿器科	43	2.3	47	2.6	△4
肛門外科	-	-	-	-	-
脳神経外科	34	1.8	32	1.8	2
整形外科	133	7.2	131	7.3	2
形成外科	12	0.6	13	0.7	△1
美容外科	1	0.1	1	0.1	-
眼科	66	3.6	66	3.7	0
耳鼻いんこう科	45	2.4	45	2.5	0
小児外科	6	0.3	4	0.2	2
産婦人科	70	3.8	69	3.8	1
産科	-	-	-	-	-
婦人科	8	0.4	5	0.3	3
リハビリテーション科	30	1.6	26	1.4	4
放射線科	44	2.4	42	2.3	2
麻酔科	62	3.3	55	3.1	7
病理診断科	11	0.6	10	0.6	1
臨床検査科	4	0.2	2	0.1	2
救急科	16	0.9	13	0.7	3
臨床研修医科	100	5.4	83	4.6	17
全科	3	0.2	5	0.3	△2
その他	25	1.3	26	1.4	△1
不詳	2	0.1	6	0.3	△4

## 2 歯科医師

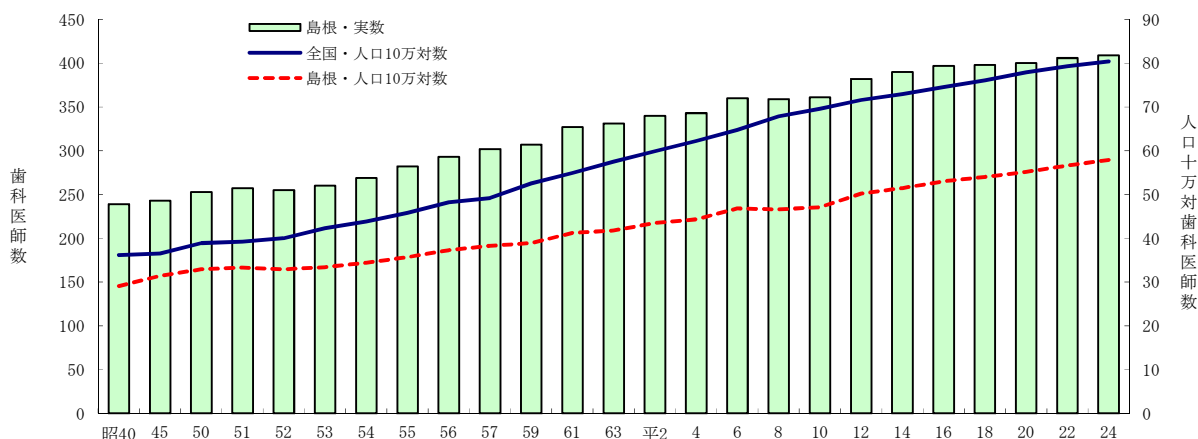
平成24年末現在の届出歯科医師数は409人で、前回調査時の平成22年から3人増加した。業務の種類別にみると、ほとんどが医療施設の従事者で97.3%を占める。うち診療所の開設者又は法人の代表者が61.4%で、診療所の勤務者が26.2%である。平成22年と比べると、病院の従事者は6人減少（構成割合は1.5%下降）、診療所の従事者は5人増加（構成割合は0.6%上昇）した（表3）。

表3 業務の種類別にみた歯科医師数及び構成割合

	歯科医師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成24年	平成22年		平成24年	平成22年
総数	409	406	3	100	100
医療施設の従事者	398	399	-1	97	98
病院の従事者	40	46	-6	10	11
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	-	-	-	-	-
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	23	24	-1	6	6
医育機関附属の病院の勤務者	17	22	-5	4	5
臨床系の教官又は教員	4	4	-	1	1
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	13	18	-5	3	4
診療所の従事者	358	353	5	88	87
診療所の開設者又は法人の代表者	251	253	-2	61	62
診療所の勤務者	107	100	7	26	25
老人保健施設の従事者	-	-	-	-	-
医療施設・老人保健施設以外の従事者	4	3	1	1	1
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	1	1	-	0	0
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	1	-	1	0	-
行政機関又は保健衛生施設の従事者	2	2	-	0	0
行政機関の従事者	2	1	1	0	0
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	-	1	-1	-	0
その他の者	7	4	3	2	1
その他の業務の従事者	1	1	-	0	0
無職の者	6	3	3	1	1
不詳	-	-	-	-	-

平成24年の人口10万対歯科医師数は57.9人で平成22年の56.6人に比べて1.3人増加した。年次推移をみると、緩やかな増加傾向にあるものの、全国平均に比べてかなり低くなっており、平成24年は全都道府県中第44位であった（図4）。

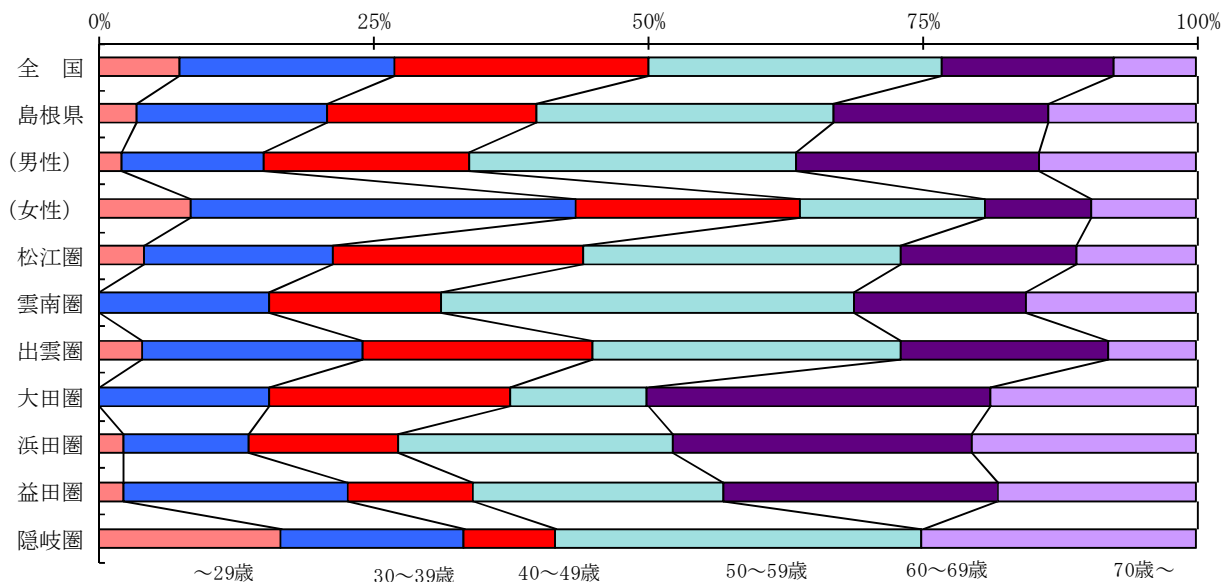
図4 歯科医師数及び人口10万対歯科医師数の年次推移



歯科医師の年齢別割合をみると、全国に比べて20歳～40歳代の占める割合が低く、50歳以上の占める割合が高くなっている。男女別に比べると、女性は20歳～40歳代が63.8%を占めており、男性は50歳以上が66.2%を占めている。

2次医療圏別にみると、大田圏、浜田圏、益田圏では60歳以上が4割を超えており、松江圏、出雲圏では、30歳～40歳代が4割を占めている（図5）。

図5 歯科医師の年齢別割合



### 3 薬剤師

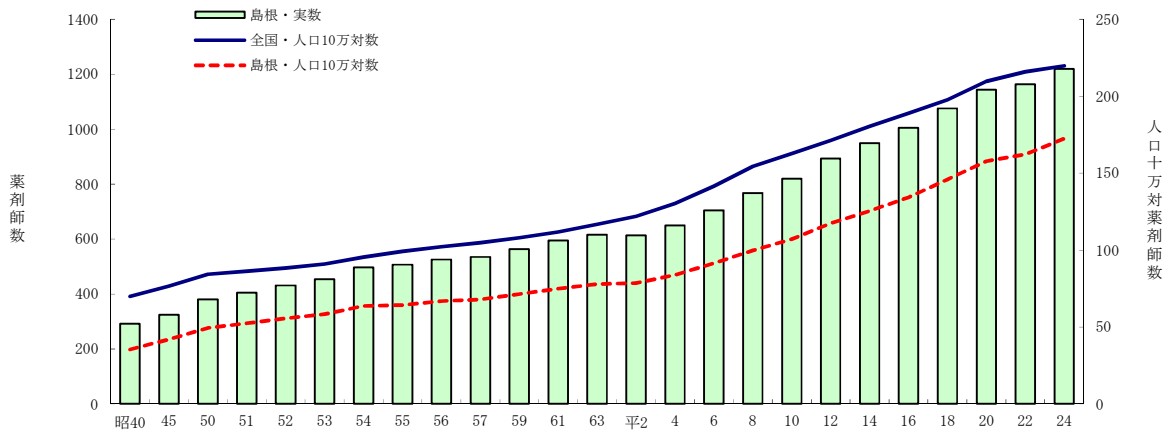
平成24年末現在の届出薬剤師数は1,219人であり、平成22年から56人増加した。業務の種類別にみると、薬局の従事者703人（構成割合は57.7%）で、平成22年から37人増加した。ついで、病院・診療所の従事者が313人（構成割合は25.7%）となっており、平成22年から4人減少している。薬局及び病院・診療所の従事者は全体の83.4%を占めた（表4）。

表4 業務の種類別にみた薬剤師数及び構成割合

	薬剤師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成24年	平成22年		平成24年	平成22年
総数	1,219	1,163	56	100.0	100.0
薬局の従事者	703	666	37	57.7	57.3
薬局の開設者又は法人の代表者	107	110	-3	8.8	9.5
薬局の勤務者	596	556	40	48.9	47.8
病院・診療所の従事者	313	317	-4	25.7	27.3
病院・診療所で調剤・病棟業務に従事する者	303	297	6	24.9	25.5
病院・診療所で検査業務に従事する者	-	-	-	-	-
病院・診療所でその他の業務に従事する者	10	20	-10	0.8	1.7
大学の従事者	10	8	2	0.8	0.7
大学の勤務者（研究・教育）	10	8	2	0.8	0.7
大学院生又は研究生	-	-	-	-	-
医薬品関係企業の従事者	101	93	8	8.3	8.0
医薬品製造業・輸入販売業（研究・開発・その他に従事する者）	27	32	-5	2.2	2.8
医薬品販売業（旧薬種商を含む）に従事する者	74	61	13	6.1	5.2
衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者	18	22	-4	1.5	1.9
その他の者	74	57	17	6.1	4.9
その他の業務の従事者	23	13	10	1.9	1.1
無職の者	51	44	7	4.2	3.8
不詳	-	-	-	-	-

平成24年の人口10万対薬剤師数は172.4人で、平成22年から10.3人増加した。年次推移をみると年々上昇しているが、全国平均と比べてかなり低くなっており、平成24年は全都道府県中第40位であった（図6）。

図6 人口10万対薬剤師数の年次推移



薬剤師の年齢別割合をみると、最も多いのは30歳～39歳で28.6%、ついで50歳～59歳の20.7%、40歳～49歳が16.3%となっている。

2次医療圏別にみると、出雲圏は20歳～30歳代で49.7%を占めており、隠岐圏では60歳以上の占める割合が50%となっている（図7）。

図7 薬剤師の年齢別割合

